

# 土壌インベントリ説明会（国有林調査関係企業向け）

開催日：2006/9/22

開催地：栃木県佐野市田沼「東京農工大学 FM 唐沢山」内  
森林資源モニタリング調査地点；ID 0 9 0 0 8 5



## 記録

予定以上の20名を超える参加者があった。今回は国有林（東北、関東、中部、関西）を中心とした調査を行う2社と近隣の群馬県からの担当者に、実際のインベントリ調査地であるID090085において実習を兼ねた調査を行った。両社とも実際の調査にあたるチームメンバー数組ずつ参加した。現地で想定される問題、効率的な調査の段取りなど実質的な質疑が行われた。担当者には土壌調査経験者も含まれており、熱心にメモをとりながらの受講の様子は、精度を維持した調査が期待できる。

調査地はスギ・ヒノキの混交林で、火山灰を母材とする褐色森林土で関東地方の典型的な土壌であった。林床はテイカカズラが密生しており、その処理が煩雑であった。また、堆積有機物が少なく、F層が無い地点があった。土壌はれきがほとんど含まれないので、すべて円筒で容積重試料を採取できたが、円筒のとれない場合の「直方体」試料の講習はできなかった。関西や中部を担当するKANSOの調査地とは状況が異なるので留意してほしい。

9:15 唐沢山神社駐車場集合

9:45 FM 唐沢山調査地 挨拶、講習開始

調査プロット設定方法、土壌炭素蓄積量調査の位置

11:15 枯死木調査

11:45 代表断面の掘削方法

12:30 昼食

13:15 土壌炭素量調査（堆積有機物と円筒採取）

14:15 実習

16:00 土壌代表断面の見方

17:10 終了 現地解散

参加者：株式会社プラトー研究所 9名（丸山ほか）

株式会社環境総合テクノス（KANSOテクノス） 9名（浜口ほか）

群馬県 1名

（参加者名簿 後日確定）

講師：森林総研 9名（高橋、森貞、吉永、三浦、相澤、橋本徹、伊藤優子、野口、酒井佳美）